

大河原町まち・ひと・しごと創生会議

第2回会議

平成27年7月3日（金）

○事務局 時間はまだ早いんですけれども、皆様おそろいですので、ただいまから大河原町まち・ひと・しごと創生会議の第2回会議を開催させていただきたいと思います。

初めに、会長であります尾形会長よりご挨拶をお願いしたいと思います。

○尾形会長 どうも皆さん、こんにちは。

きょうは、万障お繰り合わせいただきまして、第2回目の創生会議にご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

きょうもひとつ皆さんの活発なご意見を出していただきながら円滑に進めてまいりたいと、かように考えておりますので、何分のご協力のほどをよろしく願いいたします。

それでは、座らせていただきます。

○事務局 ありがとうございます。

2のほうの説明事項のほうに移らせていただきたいと思います。

進行につきましては、会長のほうでよろしく願いしたいと思います。

○尾形会長 それでは、今回は第1回目の会議でございましたので、委員の方々もいろいろと資料に基づいて説明を聞いて、非常にこれは大変だな、どういうふうこれから課題について意見、そういったものを出していこうかな、そういうお気持ちもあったかと思いますが、きょうは第2回目でもございますので、場なれのこととおありだと、こう思っておりますので、冒頭申し上げたとおり、ひとつ活発に本会を進めていく必要があるなど、こう思っておりますので、よろしく願いいたします。

私ごとでございますが、先般、皆様に対しまして、事務局を通じまして1つのある側面をご提供申し上げたわけでありまして、これはあくまでも私の拙論でございますが、その趣旨はとにかく非常に重要な課題がございますので、それぞれの角度からこの創生会議を実のあるものにしていく必要があるなど、そういう気持ちで整理いたしまして、事務局を通じてお届けしたわけでございます。

今回は、委員さんのほうからもこの会の重要性、あるいはまた大河原町の創生ということも非常にお考えになられた上、コメントをいただいておりますので、このことについては後ほど発言の機会があろうかと思いますが、そういうことを踏まえまして2回目の会合を進めさせて

いただきたい、かように存じております。

それでは、事務局のほうから既に本日のメインテーマであります資料をお届けしてございますので、その資料につきまして、一応お目通しをいただいたと、かように思っております。したがって、まず初めに事務局から資料1から4までございますが、1から4につきましてご説明をお願いしたいと、こう思いますが、まず資料説明にいたしまして、町の総合計画と総合戦略の位置づけ、そして2番目に人口推計（大枠）について、3、「大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略」プロジェクトチームの進行状況について、この3番まで一括して説明をしていただきたいと思います。その上に立ちまして、4番目、地方創生アンケートの速報値及び自由記述についてというものがついてございますので、これは1から3までとちょっとニュアンスが違うところがございますので、これを切り離しまして、1から3までの説明をまず最初にさせていただきまして、そして最後に意見交換をさせていただきたいと思っております。意見交換の時間を約1時間強ぐらい用意してございますので、どうぞ皆さん、ひとつ活発にこの会議を活性化させるためにも、ぜひご発言をお願いしたい、かように思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、事務局どうぞ。

（事務局より資料説明）

○尾形会長 ありがとうございます。

ただいまきょうのテーマでございます（1）から（3）までの説明を、これは企画財政課課長補佐初め皆さんからいただきました。まず、ちょっとこの3つのテーマについて、項目について説明を受けたわけですが、まずちょっと整理、これから意見交換をする際にも必要なので、ちょっと整理しておきますが、まず最初の総合計画と総合戦略の位置づけ、これはあくまでも大河原町としては、平成26年度から30年までの後期基本計画、N e x t大河原ゆめプラン、これが現前とした計画として、既にこれがございます。これを鋭意推進していくわけですが、昨年の暮れ、ご存じのとおり、地方創生というテーマが出てまいりましたので、その地方創生の総合戦略をどう組み立てて、このN e x t大河原ゆめプランを進める際に、その面からこれを肉づけしていくと、こういう位置づけというふうに解釈いたしました。それでよろしゅうございますね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○尾形会長 そして、その2番目は人口統計、これは2040年と2060年断面に焦点を当てて、大河原の人口がどういうふうに推移していこうかという、あくまでもこれは想定値でござい

ます。その想定値をグラフを使って説明をしたということでもあります。したがって、今回の創生会議におきましては、国の閣議決定のところでも言っておりますけれども、地方のその人口の総合ビジョンといいますか、それをつくり、総合戦略をつくりなさいと、こうなっておるわけです。終わりにという締める段階で、そういうことが書かれてございます。

町内の人口、現在の市町村のパイの中での人口がどう今後なっていくかというだけの説明でしたが、これからの大切なことは、プラス人口増をどう図っていくかというところが1つこれからのテーマにもなるかと思えます。そういうことで、この人口統計ということをご理解いただきたいと、こう思います。

それから最後に、現在進めております4つのプロジェクトチームの進捗状況について説明がありました。このプロジェクトチームの仕事というのは、総合戦略をつくるために必要な素材を整理すると、こういう仕事を現在、各4つのプロジェクトチームに分かれてそれぞれやっておると、こういうことの中間報告と、こういうことだろうと思えます。よろしいですね、それで。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○尾形会長 以上、そういう観点から、事務局の企画財政課から説明がありましたので、ひとつ1から3までのことについて順序はどうでもいいです。どうぞこれを聞いた上での感じ、意見、疑問、そういうものをまずいただきたいと、かように思います。もちろん、最後にアンケートの説明を終わった後、自由な意見交換がございますが、一応この意見といいますか、質問とか、そういうものをちょっと全部一括ということになりますと、なかなか難しいですから、皆さん、説明を伺った新鮮な感じといいますか、そういう観点から一応この3つについてご意見をいただければと、討議をしてみたいと、かように思っておりますので、どなたでも結構です。何からでも結構ですから、どうぞ意見をお出しいただきたいと思います。

どうぞ。

○委員 まず、資料1でちょっと質問をさせていただきます。資料1ですね。

それで、7の左下の7項目ですけれども、5つの政策分野は書いてありますけれども、まず1番目のところに、方向性の中に就業環境を改善するとありますけれども、これは泉さんのチームの3番目、労働環境の整備と類似しているんでないでしょうか。したがって、1番の櫻田さんのチームは仕事を中心にしたチームなので、そちらにこの労働環境の整備を移行したらいいかなと思います。

それと、2番目の施策例の中に子育て環境とありますけれども、これは3番目の保育環境の

整備とか、子育て期の支援というテーマと類似していると思うんですね。したがって、これも2番目より3番目の若い世代の結婚・子育てというテーマが政策がありますので、こちらのほうに移管して、そして2番目、新しいひとの流れの話に集中したらというふうに考えております。いかがなものかなと。

それから、こういった、また上から2番目の新しいひとの流れをつくるという施策に対して誰がプロジェクトチームを推進しているのか、ちょっと紹介がなかったので、わかりません。教えてください。

それと、最後ですけれども、こういったチームに私も具体的な具体例が出ていないので、何も言えないですけれども、私の頭の中で具体的な構想を持っているんですけれども、ぜひ参加して絵を描いたり、こんなふうに町を直したりというもので参加したいなと思っているので、それが可能かどうか、その辺について、ちょっとご意見いただきたいなというふうに思います。

以上です。

○尾形会長 ただいま大きく分けて3つの質問がございましたが、どうぞ事務局いかがでしょうか。

○事務局 そうですね、最初はこの7のまち・ひと・しごと創生総合戦略の実行ということで、検討中の必要な施策の例のところの一番上のところに労働環境、ワーク・ライフ・バランスという部分が、3番目のところにも同じく労働環境のワーク・ライフ・バランス、2つ入っていますというふうな、まずご意見でございます。どちらかにまとめたほうがいいんじゃないでしょうかというふうなご意見だと思います。これをつくる際に両方にまたがる部分がまずあるだろうということで、こういうふうに2つにちょっとかけさせていただいたというのがまずあります。

政策分野につきましては、基本的に国のほうで政策分野が5つだか6つある政策分野をやりなさいという部分がまずありますので、その政策分野でまずつくって行って、それに対応するような形で、その仕事をつくる、安心して働けるという部分で、企業誘致とかという部分を肉づけをしていったというのがまず実態なんです。その中には、同じくかぶる部分、どうしても重複する部分が出てくるだろうということで、労働環境が両方に出てきてしまったり、また新しいひとの流れというところでは、子育て環境をよくすることによって来訪者を呼びましょと、この政策分野の中でですね。新しいひとの流れをつくるというのは、大河原町への来訪者、定住者を呼び込むという部分がありますので、この部分で子育て環境をよくする、よくすれば定住者または来訪者が多くなるんじゃないかということでの、ここで子育て環境という部分が

入っているというふうにもまず理解していただければと思います。

その下の政策分野の3番目の若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるというところを、ここについては今住んでいる方の部分を何とかしてあげなければならないいんでしょうというところで、今保育環境を整備してあげればというところで、その政策ごとにちょっと若干ありますので、その辺ちょっと若干ご理解をいただければというふうには思います。確かに言われるとおり、同じく入っている部分とかというのはありますけれども、その政策ごとにやっていくと、こういう部分もあるでしょうというふうな形になっております。

それと、プロジェクトチームのほうに参加させていただきたいというご意見がございました。基本的には、なかなか参加までは難しいかと思います。ただ、ご意見があれば、それをいただければプロジェクトチームの中で反映をさせていきたいと思ひますし、この場でいろんなご意見をいただいた部分をプロジェクトチームのほうにも当然持ち帰りまして、その中で方向性、この部分に肉づけしていったらいいのではないかとかというふうな話に持っていけるかと思ひますので、そういうことをご理解をいただければと思います。

○尾形会長 いかがですか、ただいま説明がありましたか。

○委員 大体わかったんですけども、1つ、やはりこれは施策の例ですから、結果、効果的にこういった子育てにもいいし、こちらの労働にもいいんだよというのは出てくるのはいいと思うんですね。最初から2つのテーマをやるというのは、力の分散になるんでないかなというふうに思ったわけです。

○事務局 確かにそのとおりだと思います。最終的に、今後4年間の事業というふうな形になります。この子育て環境と保育環境、両方一遍に何か1つ、何か2つの政策を最終的には一方になってくるかもしれません。そこを強化していくとか何とかというふうな話になって、そこがひとの流れをつくるのと、あとは結婚・出産を備えるというふうな形でなってくるんだと思ひますので、別々に方向性がというふうな形にはならないかと思ひますので、ご理解できればと思ひますけれども。

○委員 はい、わかりました。

○尾形会長 どなたかいらっしゃいませんか。

どうぞ。

○委員 資料1でございましてけれども、こういった位置づけの資料を私からお願いしてつくっていただきましたので、ありがとうございます。

ちょっとこれでよくわからなかったところがあったので、1つだけ質問させていただきます。

6分野で33の施策ということで記載しておりますけれども、6分野というのは、多分右側の表の6つが6分野なんだろうなというのは多分推測できたんですが、33の施策というのはどれなんですか。

○事務局 実は、6つのというのがこちらの生活環境、健康福祉、都市づくり、産業、学校教育、あと役場ということで、こちらが6つ。33というのはどれですか。この数字だけ見ますと、33を超えちゃうので。

○事務局 間違っていますか。申しわけございません。

○尾形会長 どうぞ何でも結構でございますから。

では、私からちょっと、そうすれば2点ほど質問したいと思います。

まず第1点は、皆さんもそうお考えじゃないかと思いますが、ちょっとやるべき仕事之余にも数多過ぎるんじゃないかな。これは、もちろんまだプロジェクトチームがあれしてあれして2回目の、3回目か。ですから、まだまだもちろん絞り込みというのは、当然出てはくるだろうと思いますけれども、皆さん、これを見ると、ちょっと多過ぎはせぬかと。

つまり、プライオリティーをどこに置くかと。各プロジェクトの4つのプロジェクトの中で、それぞれプライオリティーの高いものはどうなんだという、やっぱりそういう絞り込みを、これはもっと論議をする過程でしていく必要があるんじゃないかと思う。大体数が多過ぎます。

もちろん、くくるそれも、方法も1つ技術論としてはあると思うけれども、それはやりたいことはたくさんあるんだけど、というのは、なぜそれを言うかという、例えばこの重点プロジェクトの中で左端に1から6まであるでしょう。1の環境先進都市の実現、それから6番のたゆまざる行財政改革の実行、ありますよね。今回の創生会議の戦略の中に6番のたゆまざる行政改革の実行なんていうのは別に入れなくたって、以上のような施策を推進するためにはたゆまざる行政改革が必要なんだという、そういう何ていうかな、これはいわゆる大河原町というものの組織の円滑な効率的な運営のことを言っているんですから、ですからこれをこのところにあるように、項目、ここで幾つあるの。窓口のサービス云々、財政云々とか何とかかんとかとあるけれども、別にこれをここに入れ込まなきゃならぬというか、やっぱりそういう必然性はどうなのかなと。当たり前のことじゃないかと。これは、別に地方創生のこれからの趣旨にあれから見たときに、要するにこれを入れなくたって、これは私の考えですよ、これはね。それに基づいて、いかに役場の仕事や効率化、能率化するかということですよ。これは、永遠の課題ですよ。何も閣議決定に基づいて、これが出てきたという、やっぱりそこにつなげなくともいいテーマではないかなと思うんですよ。皆さんにちょっと意見伺ってみたらどう

ですか。

○事務局 まず、若手職員にやっぱり総合計画の部分ももう含めまして、幅広く意見をいただくということで……

○尾形会長 それはわかった。それはわかる。

○事務局 全体的な部分で意見を出させていただいた。今回は、まだ絞り切れていないということで、45年後に向けてのお話なので、そういう部分で遠い先なのか、今やるべきものなのか、その中で今回のゆめプランの中にも合致するものが何なのか、何かそういう部分で皆さんでまずは見ていただいて、幅広く意見をいただいたという部分がちょっと先にありましたので。

○尾形会長 というのは、最初に早く言っておかないと、具体的に日にちがたってきて、プロジェクトの中身がコンクリートされてくると、なかなか今みたいな意見というのはもう入れ込む余地がなくなるわけですよ。

○事務局 まず、このプロジェクトチームの意見が全てではないというふうに思っただければと思います。

これは、あくまでもプロジェクトチームで、こういうことを将来的に2060年までやっていったらいいのではないかというプロジェクトチームの考え方です。あと、この考え方以外、きょうお集まりの皆さんの委員さん、ご意見を反映させていただきながら、先ほど申し上げましたが、また絞り込みをしながら、またこの創生会議のほうに出させていただいて、どんどん絞って決めていきたいというのが本音です。プロジェクトチームで、この5つだけですよという話ではないです。皆さんのご意見をいただきながらどんどんいいものをつくっていきたいというのが本音ですので、あくまでもこれは1つの参考というふうに思っただければ、何もなければこれでいってしまう可能性があります。ですから、何かを出していただければ、それをここの中のどこかの分野に取り込みながらよりよいもの、またはこれをもうちょっと伸ばしていけばもっとよくなるんだろうという部分を教えていただきながら、つくってきたいというのが本音でございますので、今回は今現状でプロジェクトチームが考えたもの全てを出させていただいて、それに対するご意見、または違う視点でのご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○尾形会長 今の説明のようでありますので、ひとつ皆さん、さようご理解をいただきたいと思ひます。

時間の関係もありますから、ではテーマと、今日の項目として、1つ最後の項目であります地方創生アンケートの速報値及び自由記述について、これをコンパクトに説明をしてください。

(事務局より資料説明)

○尾形会長 ありがとうございます。

こちらは、調査期間というのは何日ぐらいだったんですか。

○事務局 2週間ですね。

○尾形会長 2週間か。

○事務局 配布して回収の期限までが2週間という。

○尾形会長 2週間か。それで1,000人に対して290人、260人か。

○事務局 296ですか。

○尾形会長 そうだね、時間が短かったという、そういうあれですかね。

○事務局 大体そうです。ただ、アンケートに関しては、40%来ればかなり高い回収ということと言われておりますね。やはり転入転出の方々に出したのも30%近くだったものですから、大体30%前後という。

○尾形会長 皆さん、どうぞ。今の説明のとおりでございます。さて、ここで用意いたしましたきょうの説明事項が終わりました。

一応5時ちょっと過ぎまで時間をとりたいと思います。ただいま4時10分ちょっと過ぎでございますので、小一時間ございます。今までの説明がありましたが、これらにつきまして、またそれを超えていろいろと今後の大河原町の創生ということの観点から、どうぞご自由にどんなことでも結構でございますからご発言を願いたいと、こう思います。

その前に、事前に提出された提言もございますので、提出されたご本人からご意見といたしまして、ひとつご紹介いただきたいと思います。

よろしくどうぞ。

○委員 どうも皆様、お疲れさまでございます。

資料をいろいろと拝見している中で、テーマが余りにも多過ぎるということで、どこに向かってこの会議が行けばいけばいいのかというふうなことをちょっとこの間の昼から考えていたんですけれども、ちょっと言い出しっぺ的な、僕だったらこうやるかなみたいなものをちょっと考えてみて、口で説明するのも何だからと思って、ぱたぱたとワープロ打ってきたんですけれども、今これがおとといの夕方ぐらいに持ってきた資料なんですけれども、私は一応産業界からというふうなことで、そこにあるんですけれども、ドコモショップという電話屋と、あとは一般廃棄物処理業という、いわゆるごみの回収を2つの柱としてやっているわけです。

日ごろからこれらの視点で物を見ている部分、大河原をやっぱりこよなく愛する者として、

もう少しここを景観等についてもっとやればできるんじゃないかなというふうに常に思っておりまして、この間、柴田町の人とちょっとお会いすることがあったんですけども、柴田町のほうは柴田花いっぱい運動という形で花を相当大事にされていて、そして地域住民参加型のコミュニティが非常に形成されつつあって、これは非常に好ましいなというふうに思っていました。我が町大河原もできれば町を歩くと季節のお花が咲き誇っていて、私たちはごみ処理もやっていますので、ごみ集積所はカラスとか猫からつつかれるようなものではなくというふうに常々見ておるところでございます。

やっぱり住んでみたいというふうなことを子育てについてのアンケートの結果を見ると、相当の数が保育所であるとか、あと小児科の休日を図っていただきたいというふうな声がありますので、私も全く同じ考えでおりまして、小さい子供が安心して生活できる環境がやっぱり大河原町にはもう少しプラスアルファで欲しいなというふうなことは思っております。

それと、私、村田町にあるんですけども、社会福祉法人の柏松会という老人ホームの評議委員を10年ばかりやらせていただいているんですけども、最近特に認可保育所の設置をここ四、五年ぐらいで、6つぐらい立て続けにつくったんですけども、それだけ子育てのところに関しては、私見てきただけでも仙台市で2つぐらいありましたし、利府とか大和町とか、そのほかにも今話も結構ありまして、大分認可保育所が今でき上がってきて、こっちは大河原では全くないわけじゃなくて、きちんと保育所があるんですけども、それでもやっぱり足りないというふうなのが今現状であると、やっぱりそういうところの誘致なんかも必要ではないかなというふうに思っていました。

それと、私は電話屋で店を4つばかりやっているんですけども、気仙沼と南三陸にドコモショップがあるんですけども、さきの震災で見事に流されまして、その後に防災に関連したことを常々やっぱり思っているというふうなことで、災害対策について、やっぱり強い町であるというふうなことがあの当時、大河原は非常に大きな問題もなくて、いい町なんだなというふうなのは、やっぱり再発見させていただいたというふうに思いますね。

それで、災害に関しては、大河原の私どものドコモショップは最近3年ぐらい前に移転をして、今の場所でやらせていただいているんですけども、震災のことを踏まえると、やっぱり電気がないとか、暖がとれないとか、冷房がないとかというふうなことを想定したときに、それに呼応するような形でお店をつくったほうがよろしいんじゃないかなというふうなことで、あそこは実は電気が1系統しかなくて、全部単相の電源を使って、冷房とか暖房については3相は全く使っていないと。それをどういうふうに行っているかという、ガスヒートポンプとい

うガスで冷房をつけたり、暖房をつけたりするというふうなことがあって、それで仮に停電があったときに、ダウンしたときに15キロ程度の容量の発電機が自動で起動して、そして真冬でも暖がとれる。もっと深刻なのは、冬場はまだいいですよ。震災のときでも何とか昔の石油ストーブみたいなものを取り出してきて何とかあったんですけれども、これが真夏の停電というふうなことになる、これは対策がなかなかないわけですよ。そうすると、熱中症で亡くなる方というふうなのが結構の数がいらっしゃるというのは聞いているので、やっぱりその対策もしなくちゃならないというふうなことで、我々民間ですけれども、私たちにやれることというふうなことで、その対策はお店でやっております。それで、ぜひ仕組みを皆さんにお教えしたいと思いますので、お時間あったときには、ぜひいらしていただきたいなというふうに思っております。停電したら30秒後にはきちんと通常の、いわゆる企業でいうBCPの対策をきちんとしたお店というふうな位置づけであります。

それで、やっぱりそういうところを大河原町でどのぐらい数が確保できているかというふうなことをまず認識しないといけないんですね。本当に夏場の停電のときにどこに逃げ込んだらいいかと、助けを求めたらいいかというふうな具体的な話が、この会議資料の中にいろいろあるんですけれども、その具体的なことをどういうふうにするかというふうなところを突っ込んだ話をこれからしていくべきかなふうに思っておりました。

それと、これは病気したときにあとはどうするかというふうな、県南中核病院に私2年ほど前にちょっと体を壊してお世話になったことがあるんですけれども、割と充実しているようで、診療科目が全部が全部整っているわけではないというふうなことは、入院中、10日ばかり入院したんですけれども、それは思いましたね。ですので、みやぎ中核病院は私たちの、これは当初、角田市も含めた、大河原と村田と柴田でつくった病院でございますけれども、今はちょっと独立採算の形になりましたけれども、やっぱり我々の病院なんだというふうな意識の中で、診療科はやっぱりふやしてほしいというふうな意見はすべきかなというふうに思っておりました。

それと、この間開設されました夜間の診療窓口ですけれども、小児科が非常に不足していて、そこも全く同じというふうなことが言えると思うので、子育てをするときには、やっぱり小児科の専門医を誘致するというふうなことをみんなでやっていかなきゃいけないかなというふうに思います。

それとあと、観光客にとにかくいっぱい来てもらうために、大河原のやっぱり特産品である、きょうは私の隣にヒルズの社長さんいらっしゃいますけれども、私もこよなくあのもちぶた大

好きでございまして、北海道に帯広でしたっけか、豚丼があって有名ですけども、あそのまねをするわけではないんですけども、炭火で豚をあぶって、そしてこういうたれで、そして御飯の上に乗けて食べたらおいしいだろうなど。こんなにおいしい豚肉が大河原町内にあるのに、何でそれをやらないんだろうなというふうなのは前から思っていて、これもそんなに難しいわけではなくて、割と簡単にできるんじゃないかなと。飲食組合のほうにお話をすれば、そういうふうなものに協力してくれるんじゃないかなというふうに思っていました。

それともう一つ、治安がいいこと、これは防犯上とか、そういうふうなものの治安というふうなことももちろんなんですけれども、割と大河原は捨て猫が多いんですね、結構多いんです。それで、環境省で2000何年、ちょっと忘れたんですけども、地域猫というふうなものの考え方が出てきまして、要は捨て猫を拾って、そして保健所に行って始末するという考え方じゃなくて、せつかくこの世に出てきた命なんだから、その命を大事に、そしてこの一生を安心して暮らせるというふうなことで、去勢をしてあげて、なおかつ耳にちょっとピアスをしてあげて、それはきちんと地域で見守っている猫なんですよというふうなことで、猫の尊厳と言ったら変なんですけれども、そういう命も決して無駄にしないというふうなところで、そして地域猫というのは、大体5年ぐらいで一生を閉じるらしいんですけども、繁殖を防ぎながら、そして猫の縄張り意識みたいなものを、そういうふうなものをむしろ活用しながら、ちょっと一息つけるようなコミュニティーの材料にしていければ、なおかつおもしろいじゃないかなというふうに私は思います。

ですので、猫の話というのは好き嫌いあるんですけども、各自治体でも取り組んでいるところがありまして、ここに東京の野良猫対策みたいな、結構何々区でやっていて成功例も失敗例もあるようです。成功しているところは、50匹ぐらいのところは15匹ぐらいに減ったと。むしろ、いい意味での猫の救済活動みたいな形になったというふうな地域もあるようで、猫がふえてしまったというふうな部分もあるみたいですね。それは、やり方一つだと思うんですけども、大河原の猫、割と凶暴な猫も中にはいるようなので、それがあちこちの庭を踏み荒らしたり、あとは子供にかみついたり、そういうふうなことがないようにだけはやっぱりしていかななくちゃいけないかなというふうに思っています。

そして最後に、私たちは、インターネットのところに關してのやっぱり量が非常に私どもも移動体の電話屋ですと結構多いんですけども、これからIoTというふうな言われ方しているんですけども、インターネット・オブ・シングスと、要は物のインターネットと訳すんですけども、一昔前まではM2Mという表現していたんですけども、それはマシン・ツー・

マシンという意味なんですけれども、物をインターネットでつなげて、それでその情報をとって、それをビッグデータ化して、それを有効に活用しましょうという流れのものです。

実は、ごみ処理をやっている中で、最近、物すごく孤独死された方であるとか、そういう方の後の処理が各自治体のほうからのお仕事として正式に私たちやらせてもらっているんですけども、本当に孤独で亡くなる人ももちろんこれからふえはしても減りはしない、むしろふえてくるんですけども、きちんとそういうときに見つけてあげられる、2週間も3週間もたつてからどうにもならないような状況で、そしてその亡くなった方がそんなに周りに迷惑かけると思わないで亡くなる方というのは、やっぱりそういう孤立死というふうな形で、一言で片づけられてしまうんですけども、そういうふうにならないような形に地域としてやっていかなくちやないんじやかなということで、私たちができるのは、やっぱりそういうインターネット技術を駆使した見守りサービスみたいなもの、誰でも彼でもそれはつけるというふうなことになるかと費用もかかってくるので、ある程度75歳以上で、なおかつ介護認定とか支援の必要な方というふうなことに限定せざるを得ないと思うんですけども、地域を挙げて自然死を、自然なら自然死を迎えさせてあげられるというふうなことも1つ社会貢献の一つになってくるかなと。健康的に長生きしてくれるというふうな人のことはいっぱい書いてあるんですけども、やっぱり静かに亡くなっていく人たちの尊厳も我々が見守っていく必要があるし、そういう社会がこれから訪れる、あと10年、20年後にはそのラッシュを迎えるというふうなことで、今のうちからそれは準備しておいてあげるとよろしいかなというふうに思っています。

というふうな形がきょう資料にまとめてきたんですけども、それで裏のほうにちょっと物語風にまとめたんですけども、ちょっと簡単ですけども、朗読させてください。

「歩きたくなる街」（物語風）というようなことで、景色に関して、季節の花が咲き誇っていて、カラスや野良猫が散らかすことなく、ごみ集積所がきれいだ。朝夕通学通勤でにぎわうこの道路には、IT技術を駆使したカメラが設置してあり、児童が安全に通学できる。すがすがしい空気を感じながら歩いていくと、お年寄りのはつらつとした姿に出会う。どうやらお昼の買い物だろうか、小さな器に入った惣菜がおいしそうだ。これは、ちょっと物語風になって、こんなような展開にしていたんですけども。

続けて歩くと、何匹かの猫がいる。みんなさくらっきーのマークのついたピアスをして、野良猫でもないようだが、飼い猫でもなさそう。猫には、それぞれの名前がついていて、行き交う人たちが飼い猫のように声をかける。大人も子供も笑顔がまぶしいと。みんなでかわいがる、というふうになるんじゃないかなというふうに。

さらに歩いていくと、何かおいしそうなおいがしてきたと。炭火独特の火の香り、何人も行列をつくっていますよ。名物の大河原豚井のお店に到着。ここだけじゃなくて、見えるだけでも同様の店が多数、数件ある。他の町から来ているのだろうか、みんなガイドブックを携えている。町の人に聞いてみた。「この町どういう町ですか」、「本当に揺りかごから墓場まで」というふうな明快な答えが返ってきたというふうな町をちょっと私の想像の中では目指したいなというふうなことでございます。

以上でございます。ありがとうございました。

○尾形会長 ありがとうございます。

大河原に通じて、大河原の町をよく整理して把握された1つの考え方、提言と承りました。たまたま私見ではあるけれども、「歩きたくなる街」ということでお話しもされたわけですが、「歩きたくなる街」という観点からひとつ何かご発言をいただけないかなと、こう思いますが、よろしくご発言をお願いします。

○委員 そうですね、「歩きたくなる街」に直接つながるかどうかという部分なんです、私は祭りというイベント、イベントを中心にして町の活性化を図ったらどうかというふうに考えています。例えば、今、大河原でやっている祭り、桜まつりとか、あとこの前やった梅まつり、ちょっと姿がなくなり ラベンダーまつり、あと花火大会、佐藤屋 de 雛まつりとか、いろんな祭りがある。ちょっと今出てこないんですが、いろんな祭りがそれぞればらばらにやっているのを何か一本の串刺しにして、町としてそれを一つ一つ実行するようになっていくのはどうだろう。それが役場職員がただ単にそれをやるだけで、町を挙げてできるようにしたらどうでしょう。

それをやることによって、例えば桜まつりで汽車に乗って大河原駅におりた人が歩いての感想で、大河原町って何もないのねという、口々に言いますし、大河原のそのほかから来た人だけでもなくて、町内の人でも大河原って何もないよねなんていう言葉をよく耳にします。桜を見に来た人が本当に充実して、ああ、よかったと帰っていくのには何があればいいのか。例えば、行ってちょっと食事するところ、あるいは休むところ、あるいは町の様子を少し見て歴史のことをわかりたいとか、あるいはお土産を買えるところ、あるいは特産品が一堂に集まって開催している場所に行ってみて、いろんな特産品を買いあさると、そういうようなことを各祭りごとにそういうことを実施していくことによっていろんな農産物を、もう少し活性化にもつながっていくし、特産品に関してもいろんな工場の活性化にもつながっていくし、そういうことも含めて文化財関係もちょっと町を知っていくためには、いろいろ案内したりなんかすること

によっていろんな仕事も広がっていくし、人たちも広がっていくことに続いて町の活性化につながっていくのではないかというふうに考えていました。

以上です。

○尾形会長 ありがとうございます。

きょうは、女性の委員がお三方いらっしゃいます。どうぞお三方の中でどなたでも結構でございますから、女性的視点からきょうのテーマであります第2回目の創生会議のことにつきまして、総括的にでも、第1回目の会議を聞いた上での話でも結構でございますから、どうぞ自由にご提言、ご意見の提起をお願いしたいと思います。どなたかどうぞ。

○委員 ありがとうございます。

大河原に引っ越してきて10年になります。以前は、千葉県に住んでいて、本当に働いていたんですけども、田舎で子育てしたいなと思って大河原に引っ越してきました。今、4人子育てしながら感じていることを話したいと思います。

さくらっき一号があるんですけども、まず土日利用できないということがあって、初め引っ越してきたときに東京のほうって車がなくても暮らせるんですね。私運転できなくて、しばらくはタクシーだったりとか、おうちの人に乘せてもらったりしていたんですけども、さくらっき一号いいなと思って、土日もぜひ利用できるようになったらいいなと思いました。

あと、支援センターが土日、これも利用可にしてもらいたいということと、あと私が住んでいた実家のほうではコドモ館というものが町内に3カ所ぐらいあって、赤ちゃんも遊べば、小学生も遊べる。そんなに広くはないんですけども、卓球台があったり、ボードゲームがあったりして、赤ちゃんコーナー、小学生コーナーで小学校の近くにそれぞれあるというところが、ああ、子供の居場所があるというのっていいなと思いました。学校でも家でもない場所があって、先生が1人いるんですけども、その人が名前を覚えてくれて、名前を呼んでくれたり、相談に乗ってくれたりする場所がある。支援センターもこれから活用されていくとは思いますが、今1カ所しかないので、ちょっと遠いかなとか、何かもうちょっとたくさんふえたらいいなということは感じています。

あと、地方の魅力ということで、やはり自然が豊かなこの町を生かしていくのに魅力あるイベントがもっと充実できたらいいなと思っていて、子育てしていてイベントってやっぱり楽しみでもあるので、今桜まつりがあって、梅の花もすごく一山全部梅の花みたいなのところがあるので、梅の花まつりみたいなのもできたらいいかなとか、ホテルの里があって、せっかく蛍がいるので、そういう蛍祭りみたいなこともできないだろうかとか、お肉がおいしいという話も

あって、私ももちぶたさん大好きなんですけれども、例えば白石川でバーベキューイベントとか芋煮イベントみたいなこともできたら、また人も集まってくるんじゃないかと考えています。

私自身もアートの宝箱ということで、子供たちにアートを通じて工作のイベントを行っているんですけれども、今後も何か子育て中のお母さんたちと一緒に続けていきたいイベントとしてやって活動しています。

あと、子育てして感じるのが子供ってお稽古にお金がかかるんですね。今いろんなお稽古があるんですけれども、やっぱり1回お稽古すると月に5,000円、6,000円、子供が何人かいると、また掛ける2人分負担、3人分というふうにかかってくるので、例えばこれは私のまた実家の話なんですけれども、サークルのようなお稽古があるんですよ。公民館で先生が来てくれて、月1,500円とか2,000円でお稽古が受けられるというのが地元のほうであって、何かできないかな、公民館を利用して、そういったサークルのようなお稽古を活用できないかなというのを考えています。

例えば、何か今公民館で先生が来られないんですね。お金を払って何かやるという商売みたいなことができないので、やっぱり何かそこをもって柔軟に考えられたらいいのになと思っていて、例えばママさんでも特技のあるママさんって結構いて、英会話が得意だったママさんとか、習字ができる、ダンスができる、また私はピアノができる、英語ができる、いろんなお母さんたちがいるので、そういうお母さんたちに先生になってもらって、ちょっと安くお稽古のようなことができたなら子育てしやすい町になるのになんていうことも考えています。

あと、地元企業とのタイアップということで、例えばですけれども、何かもう私の妄想のような世界になってくるんですけれども、萩の月の工場見学なんていうようなことができたらいいなと思っていて、例えばカップラーメン工場というのがあって、オリジナルのパッケージがつかれるというのは結構魅力的な、全国から人が集まってくるような工場があるんですけれども、オリジナル萩の月といってパッケージに自分の子供の写真が入れられるというイベントを以前していたことがあって、例えば年に1回でも何かそういう三全さんでイベントができたらいいなとか、とんとんさんでも以前一緒にイベントさせてもらったときに子供が200人ぐらい来たんですね。とんとんのこども祭りということで、結構ばあっと人が集まるイベントができるんだ、ここでというふうにすごい感激したんですけれども、例えば子供祭りであるとか、そこで乗馬体験ができるとか、今すごくわんぱくの森がかなり完成ってしてきているので、今後何かとんとんさんでできたらいいななんていうことを考えています。

あと、蔵王の飴本舗さんなんかではあめづくり体験ができたりとかしてもいいなとか、工務

店さんが結構多いので、その廃材を使って自由に工作できるような　ちっちゃい　をつくったりとか動物つくったりという、そういう木工祭りみたいなことができれば、またおもしろいとか、地元企業を生かしたイベントということができたらいいなと考えています。

以上です。

○尾形会長　ありがとうございました。

児童をいろいろと対象にしたお仕事といたしますか、児童の立場に立った何かそういうまちづくりといたしますか、創生といたしますか、そういう観点から何かご発言ございませんか。

○委員　そうですね、祭りですと、例えば子供を連れて桜まつりのときにトイレとかないのですよね。土手をずっと歩いて行って船岡のほうまで行く、金ヶ瀬のほうまで行く、何か所トイレあるのでしょうか。だから、そういうところで子供を連れてきて、すごく散歩をしながらトイレの心配もないとか、そういう施設でも、仮設でも何でもいいんですけれども、やっぱりその祭りのときだけでもなく、子供を安心して連れて歩かれる遊歩道の整備をすることがやっぱり「歩きたくなるまち」ということにつながるんじゃないかなと思います。

それから、ごみなんですけれども、私は今度は子育てから離れたところで、農業もやっているもので、とにかく大河原の農免道路はごみが多くて多くて、とにかく田んぼを耂う前に、1つの田んぼから45リットルのごみ袋に1つごみを拾ってからでないと、田んぼを耂えないという状況なので、あと古いごみ袋とかよその町のごみ袋にいろんなごみを入れて、とにかくもう草むらに捨てていくという感じで、田んぼを守る人たちは自分の田んぼだけでなく、そこを歩く人のためにもヨセガリとかを一生懸命しているんですね。そのきれいなところとにかくごみというごみをぼんぼん投げていく、そういう環境を汚すようなことを平気でしているので、やっぱり町としてごみが捨てづらくなるような環境をつくってほしいなというのもあります。

あと、やっぱり支援センターですけれども、土日あいていないので、そして小学校の子供かが利用できないんですね。幼稚園、保育園に入った子供たちも利用できないので、未就園児ということなので、それも少し緩和してもらって、誰でも雨が降ったときに行けて、公園できょうは遊べないけれども、支援センターに行こうねみたいな、そういう環境を整えてもらえば、お母さんたちは雨降ったときどうしよう、家の中でもわあわあと子供がうるさいのにどうしよう、でも支援センターに行けばみんなに会えるねというような子供に優しい環境をつくってほしいと思います。

それから、あっちこっち話飛ぶんですけれども、白石川でせっかく桜の花があるんですけれども、結局本当に桜の花が終わったら何もなくて、昔大河原町でラベンダーまつりとかとやりま

したけれども、結局そのラベンダーもどこに行ってしまったのか、町なかにちょっとあるぐらいで、まとまってあるものもないので、本当に大河原町として花いっぱいにするのであれば、埼玉県の手賀原市権現堂みたいにとにかく桜の花と菜の花と一緒に咲く、終わればアジサイが咲く、その後、彼岸花が咲いてとどンドン季節の移り変わりに花がうんと咲くような環境を整えておけば、大河原町って一年中花があって、電車おりると、土手を歩くと何でも見れるんだよ、すごくきれいなところなんだよという、広がる場所から観光客も多いと思うんですね。

お金がかかることを考えなければ、将来的にはさくら大橋の上のほうから、例えば道の駅みたいな施設をつくったとして、そこから船を出して、ここの白石川の町のところまで船で来られるような施設みたいなをつくれば、年中遊覧という形でお客さんが呼べるかなというものもありますし、各行政区でも、老人会でもいいんですけれども、ここからここまではどこどこ区みたいに割り当てて助成金を出せば、その区で競い合って、その土手はとともきれいにするとするので、草刈りとかそういう面できれいになると思うので、そういう形で本当に今は雑木で埋まっていて、せっかく桜の花きれいなのに雑木で見えないみたいなところがあるので、下草とかきれいに刈って、雑木も伐採して間伐したりしてきれいな環境を整えて、少し観光客を呼んで外貨を稼ぐような方向でないと、本当に福祉に優しい町をつくりたいのはわかるんだけれども、福祉も大事だけれども、やっぱり外からお金をどんどんおろしてくれるお客さんをどんどん呼ばないことには、そのお客さんが来て、ああ、大河原はとともきれいなところなんだよと、それが口コミで広がって、ネットで広がって、大河原町にどんどん引っ越してくる人がふえるような環境をまずはつくっていかなくちゃ、施設とかも大事だけれども、まずはそういう身近にできるごみをなくすとか、あと支援センターを土日開放するとかして、どんどん子供を育てやすい環境をつくってほしいなと思います。

以上です。

○尾形会長 ありがとうございます。

副会長には、最後のご挨拶のときにご発言をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○尾形会長 創生会議、創生の問題につきましては、県としてもいろんなことをお考えだろうと思いますが、そういうことも含めまして、県の要職にある方の立場から大河原の創生に対する1つの提言といいますか、アドバイスといいますか、物の見方といいますか、ひとつご発言いただきたいと思います。

○委員 すみません、大した要職ではないので、ただ、ここ2市7町管内を一応見ているとい

うことで、そしてこの創生会議の関係も私、角田市、そして大河原、そして柴田、そしてあとは白石も多分言われると思いますけれども、そういったところの会議ちょっと見させていただいているという観点から言わせていただきたいところもあるので、ちょっとその辺お話しさせていただければと。

○尾形会長 どうぞ。

○委員 やはりその市町によって特性というか特徴は必ずあるということでは、まず間違いのないのかなと。それで、その各市町のやはり特性を生かしたものという、それがやはり一番大切なことなのかなと思います。

実際、例えば角田市、角田市であればやはりケーヒンとか、そういう大きい大工場を持っていますので、実際昼間人口は多いんですね、やはり。そういったことを考えると、その辺の大河原町のちょっとデータ持っていないところがありますけれども、多分大河原だと、やはり通勤者のほうが逆に多いのかなというような感じしています。となると、外への通勤者が多いのであれば、やっぱり土日に地域貢献というか、そういった観点を考えていろいろなことをやっていく必要はあるんじゃないかというような感じがしています。

そうすると、先ほど祭りとかイベントとかというようなお話出ましたけれども、やはりその辺のところに着目して通勤者、土日に活動できる方々のためのイベントとかお祭りとか、やはりそういったものをこの大河原の地域固有の資源に着目していろいろやっていただくのがいいのかなと思っています。

あと、先ほどちょっと角田のお話しさせていただきましたけれども、やはり大河原町というのは第2次産業、ちょっとここが弱いのかなという気がしています。実際、第2次産業につきましては、柴田とか角田とか村田とか、そちらのほうと生産額、それを考えると、やはり大河原はちょっと低いというような状況はありますので、ただし逆に第3次産業、商業とか、そっちのほうの生産高はやはり高いというようなことになっていますので、第3次産業を中心にいろいろ企業誘致といっても、やはりIT関係とか、そっちのほうに着目して進めていくべきなんじゃないだろうかとちょっと思っているところです。

あともう一点は、私がもうこれは個人的に思っていることなのかもしれないですけども、やはり若い世代、特に小学校とか中学校とか、そういった児童の方々を転出させない努力、やはりこれが必要なんじゃないかなとちょっと思っています。そのところは、結局教育とか、あとは教育によって地元に対する誇りとか地域のよさ、やはりこのところを理解してもらう努力が必要なんじゃないかというように思っています。

実際、自然とか文化、歴史、そういったものもありますけれども、やはり産業というか、この町の産業、ここでは菓匠三全とかもちぶた館さんとか、こういった食関係の部分がある意味特徴なのかなという感じしておりますので、食関係のすばらしさとかやりがいとか、そういったものを子供のうちからいろいろ教えてもらって、誇りを持って、小学生、中学生、高校生、やっぱりこういった方々が外に出ないような工夫も必要なんじゃないかなというように感じております。

あと、子育て対策につきましては、アンケートの結果を見ればわかると思いますので、これは絶対必須なんだろうというような気はしております。それで、この管内、どこの市町も同じなんですけれども、やはり特徴を持った地方創生の戦略をつくっていただければありがたいなというところでございます。

以上です。

○尾形会長 ありがとうございます。

銀行の支店長さんとしていろんな場所、地方を町をあるいは市をお歩きになられたんじゃないかと思いますが、そういうところにお住みになって、今、大河原でお仕事されているわけですが、そういう比較を含めて、何かお考えがございましたらひとつご披露いただきたいと思えます。

○委員 まず、私資料を拝見して思いましたのが会長さんからもプライオリティーという形でさっきお話にございましたけれども、項目が多数ある中で、ただ羅列するのではなくて、例えばこの中で既に問題化しているものであるとか、あとこれから新しく掘り起こさなくちゃいけないもの、例えば問題化しているものであれば、それを克服するためにどういうふうな創生が必要なのかな、これを守りとすれば、新しいものを入れていくものが恐らく攻めの創生みたいな形になるんだと思うんです。それを分けることで、一番最初に守っていかなくちゃいけないもの、また一番最初に攻めていかなくちゃいけないもの、こういったものが次第にちょっと引き出されてくるのかなと思いましたが、守りから逆に攻めに持っていけるものもその中から出てくるんじゃないかと。

例えば、高齢者の方がふえてきて、お一人でお住まいになっている方がいらっしゃったとして、その周りに空き地があるとしたら、それを何とか活用することで高齢者の方が1人で住んでも安心なところとか、例えばそこに子供さんの施設を一緒に持ってきて交流の場をつくるとか、そういったことも勝手な考えですけども、規制とか条例とか全く無視してしゃべっていますけれども、そういったことも考えられるんじゃないのかなと思って、漠然としてですけれ

ども、先ほどからちょっと考えておりました。

先ほどもありましたけれども、企業誘致というところで見ると、昨年の12月の大河原のハローワークの求人のデータで、建設業の求人は4倍以上だったんですけれども、建設業が4倍ちょっと、介護関係が2倍ちょっとあるんですが、事務系が1倍にも満たないというところで、ハローワークに仕事を求めている方の数というのは明らかに事務系のほうが求職されている方は多くて、ただ企業からのいわゆる募集は事務系にほとんどないという状況だったこともあって、企業の誘致をするに当たって、そういった、何ていうんでしょうか、希求というのか、町民の方々が求めている企業を優先的に誘致を働きかけるのがいいのかなんていうことも考えてはおりました。

あと、地域振興というところでは、私も以前、震災で被災をした支店におりまして、今そこはこれに向かっていろいろやっているんですけれども、先ほどはもちぶたを使った豚丼という話もありましたけれども、そこが例えば海鮮を使ったものであるとか、そこはサンマがよく揚がる港だったんですけれども、サンマバーガーであるとか、海鮮丼であるとか、それは各店舗でいろんなメニューを考えて、それが観光客の方がいわゆる周遊、次はここに行って食べよう、次はここのもを見てみようとかという形をとって、かなりにぎわいを見せております。なので、いつまでも被災地だからという意識を捨てて、ここだから来たいという意識にしようということで若い方々が頑張っていたりするので、そういったところがどんどんこの町も若い世代におりてきていると思うので、新しい考えを入れながら取り組んでいけば、また違った創生になるんじゃないのかなと思いました。

○尾形会長 貴重なご意見ありがとうございました。

先ほど来からいろいろともちぶたさんのお話をいただいておりますが、いろんな方々から出ております。現在いろいろと火災後の建て直しのために大変ご苦労されておりますが、今後の事業展開等を含めまして、お仕事の面、創生といいますか、そういう観点についてご発言いただければと思います。

○委員 ありがとうございます。

いつもいろいろお世話になっております。

いろいろ皆さんからお話を出していただきまして、本当にありがたいと思っております。私の商売柄、やっぱり観光とか食とか、そういう面から、あと農業とか、そういった面から交流人口をふやすことができないのかなという側面から私も考えてみたんですが、まずそれって外から人を呼ぶということは、まずそこに住む人、そこにいる人がやっぱりその地域の愛してい

る、誇りを持っていて、それで地域のことをよく知っていなかったら、来ていただいた人にまず満足いただけないんじゃないかという側面で、まず人の育成というか、まず何より言葉としては人間力ということで考えたんですが、人間力が高い町大河原町ということで、それでどこから来た人にも町のよさなり全てのことにおいて話ができる。

そして、いろんなイベントで他町、多くの方に来ていただくと思うんですが、そういったときに私やっぱり観光ボランティア的な方が必要なんじゃないかと。ガイドブックというのでもいいんですけども、人がそれを全て、語り部じゃないですけども、文化も含めた語り部、そして観光もボランティアができるような、そういった人を育成して、それをつなげていくことによって若い世代から地域に愛着を持って、住みたい町、定着したい町、そういった人の力が高いというか、そういった町がまずあって、そういったところから交流人口とか、そういうものがふえていくんじゃないかなということ、まず人を育成するというのが大切なんじゃないかなと、私なりにこそこまでちょっと考えて、その先の具体的なことはまだ考えていないんですけども。

○尾形会長 ぜひそういう面についての物語を、シナリオをひとつおつくりいただいて、いろいろどんどん提言されて、それが創生のほうに結びつくような、どうぞそういうことをひとつご期待を申し上げます。

最長老といますか、今までいろいろと若手のほうからいろんな発言がありましたけれども。

○委員 サイレンが鳴ったので、もう終わりかなという。

なでしこジャパンを見るのに忙しくて、何かある程度聞きほれていたんですけども、ちょっとなでしこジャパン、そんなに澤選手みたいにすぐれたスーパースターがいなくても勝っているというのは、やっぱり全員の力が、一人一人が本当に頑張っている、全員。

ちょっと振り返ってみて、ただきょうの会議の進め方といえましょうか、やっぱり考える必要があるんじゃないかなと思っておりました。といいますのは、委員として出席する人たちが15人いますよね。委員長さんは議長さんですから外しますけれども、その15人の人たちが話し合いの中に参加していろんな自分なりの意見を出していけるためには、やっぱり自主ルールみたいなのをつくらないとまずいかなと思っていました。

私もおしゃべりなので、みんなしゃべり始まったら多分30分、40分は平気でしゃべっちゃうんですけども、私のほうからは、次回からは、ぜひ1人5分以内ぐらいで自分の言いたいことを言い切る。言い切れなときは、まだ残りありますけれども、この次にということで、5分たったら終わるようにいたしませんか。

そのためには、何について、今自分の意見を求められているのかということをやっぱりもっとはっきりとしたコントロールをしていかないと、何でもいいからと言われたときに当てられて、5分間でやれるというのは本当に無理だと思うね。でも、このコップについて白か黒か言ってくださいとかというんだったらば、5分もあればいろんな理由を言っても、話は自分なりの意見は出せると思うんです。

きょうだったらば、3時から5時までの120分ありましたよね。開会行事や挨拶、それからいろんな説明で20分とっても、残り100分ぐらいは話し合える時間がある。最後のほうの5分、10分はいろいろまとめや何なの、閉会行事もありますから、そうするときょうの中身だったらば、3つのプロジェクトチームからいろいろ出されてきた原案のたたき台の前のようなものがあつたわけですから、少なくとも私だったらば3つあつたので、3つに切つて、100分を3つに切ると割り切れませんが、1つ30分ずつやつて、30分たつたらもう次のプロジェクトチームの提案に移ると。その30分の間は、1人、さっき私の提案した、もし5分間ルールを皆さんが守っていただければ、何だかんだ言つても五、六人ぐらいは、そこで一番初めのプロジェクトチームの提案については意見を出せると思う。拡大していくと、5人しゃべつても15人ぐらいはお話を聞けるわけでありませう。それは、最後に閉会の言葉なりなんなりで5分、10分の最後に残つたところで、きょうの会議ではこれだけのことがわかつて、ここを次回からは、このところをもっとみんなで攻めましようねというようなことを明確にしてもらえれば、この次話をするとき予習とか自分なりに考えてくることもできますし、というようなことを考えながら、ちょっと今きょうは話を聞いておりました。

私だけの考えかもしれませうけれども、せつかくこれだけの人数が集まつていて、例えばきょうは話題提供でどなたかに30分お願いしました。その後、意見交換しますというのがわかつているのであれば、30分まで提供されても、もちろんそれはそれで結構ですし、毎回2時間番組なんていうようにこだわらないで、私だったらば逆にきょうはもうみんなで5時間、1時間から集まつて6時まで徹底的に話し合ひましようという日があつてもいいのかなと。反対に、話し合ひの中身を明確にして、きょうは例えばプロジェクトAチームの話題にしぼつて1時間だけでお願いしますとかというふうな、つまり短いショートバージョンとか、長くがっちりみんなで時間かけて本当に一人一人が自分の思つていること全部、それほどの問題についてはですよ、話ができるようなものを保証して、そして話し合ひを進めていくというふうなことを、これからまだ来年も続くということであるならば、きょうで終わりならば、これ言つてもしようがないんですけれども、次回、その次にもまたあるわけですから、会長さんにはお願いなん

ですけれども、ぜひ事務局と事前にちょっと打ち合わせをしていただいて、きょうの進め方は、きょういかがいたしましょうかみたいな話でいくんじゃないかと、きょうはもう開会の挨拶が終わったら、きょうは話し合いの柱はこれとこれですから、この2つ、3つのことについて皆さんから意見をいただきますとか、あるいはこれをまとめるためにみなさんからご意見をというふうなことでやっていけば、時間配分も初めからもうできてしまいますし、その中だと皆さんが、ああ、この問題については、もうあと10分しかないなと思えば、5分どころか、3分で話をしようというふうにもなっていくんじゃないかなというふうに思っておりました。

ちょっとやっぱり長くなりましたね。5分も過ぎてしまいました。

○尾形会長 大変会の運営につきまして、建設的なご提言をいただきまして、まことにありがとうございました。

会長といたしまして、次回からその旨を篤と胸に刻み込んで、進行方につきまして努力したいと思っております。よろしく願いいたします。

それから、仙台から大河原に転入されて、まだ日も浅いわけでございますけれども、今までのお住まいになっていた仙台からこちらに来まして、いろいろとおかしなことがあろうかと思いますが、ひとつこの創生のことにつきましてご意見を賜りたいと思います。

○委員 まず、仙台から転居したということなんですけれども、もともと柴田町なので、出身が、でも地域的には理解しているつもりなんです。

提言ということで、先ほど事務局のほうから、この創生会議のあり方が創生本部とプロジェクトへの提言もよろしいということで交通整理していただいたので、ぜひ私地元という立場でちょっとお話しさせていただければ、先ほど文化遺産という面でお話があったんですけれども、柴田町には、私、船岡中学校出身なんですけれども、大池唯雄という直木賞作家がいて、それが、その方が私出身の船岡中学校の校歌の作詞家なんです。この大河原管内にも大池唯雄の作詞の小中高があるとは存じていますけれども、でも、さて目を大河原に転じてみれば、ここに佐藤佐太郎さんという歌人がいらして、そこに駅前の方に歌碑があるということで、ぜひ文化遺産ということで、ご案内かどうか、今、日本全国にはまちおこしで文化賞というんですか、小説や短歌の先例ということで、それをまちおこしに使って、興している市長さんがいます。

そこで、大河原町についても、せっかくそういう望まれた文化遺産ということで、全国区の歌人さんがいらっしゃるの、仮称なんですけれども、文学賞ということで、短歌部門ということでプロジェクトチームへの政策提言でいえば、新しいひとの流れをつくるという範疇なんですけれども、プラス大河原町のイメージアップということで、なかなかなじまない短歌とい

う分野なんですけれども、日ごろ新聞を見る限り、朝日とか河北にも投稿して選定された方が載っていますし、全国的にも毎年国民文化祭というのが各県持ち回りでやっているんですが、その場所でも一応短歌を全国で募集していますし、それはいろいろ大河原町の役場の範疇なのか、教育委員会の範疇なのかどうかわかりませんが、そういった1つのイベント的なまちおこしという手法もあるんじゃないかというふうに思っています、それで提言させていただきました。

5分以内でもう一つあるんですけれども、資料1にいろいろ重点プロジェクトということで、環境先進都市の実現から6番目、7番目ということで、まち・ひと・しごとの実行ということで、優先順番わかりませんが、過日の第1回の会議のときに町長さんからこれをいただきます、これはいろいろ、ある意味では私の理解内で間違っていればあれなんですけれども、みやぎ県南水素エネルギープロジェクト協議会そのものがこの大河原町の事務局になっているところで、重点プロジェクトでいえば環境先進都市の実現の1の項目になんですが、それがどうかは別にして、ぜひ地方創生とは何かということキャッチコピー的に一言でわかりやすい言葉で集約して、これから7月やなんか町民の懇談会も予定されていますので、そういったことも、いわゆるキャッチコピーというのは1つ凝縮された、大河原町の町政とは何を求めているんだということのいろいろメーンというかアドバルーン的な意味合いもあると思いますので、そういった、どれを優先するかはこれから論議していただくか、あるいはそういうことは必要ないということもあるんでしょうけれども、ぜひ事務局のほうでご一考いただければと思います。

私自身、個人的には、ぜひ環境都市という、実現ということで進めていただければというふうに思います。もちろん、どういったコピー内容については、皆さん方のご意見なりプロジェクトの意見、あるいは創生本部の意見となっておりますが、というのはこの資料1にも記載されているとおり、政策分野の中で地域と地域を連携するという項目があるものですから、先ほどお話しした、ちょっと後段に戻りますが、みやぎ県南水素エネルギープロジェクト協議会という広域プロジェクトチームはありますし、環境に優しいという、今の時代の趨勢に合った形でのキャッチコピーというような意味合いでアドバルーンを上げれば、なお町民の皆さん方に関しては、ああ、大河原町はこういうところに進んでいるなという、一言二言というような、10字、20字以内でわかりやすいということで進めていけばいいんじゃないかなという思いがありました。

以上です。

○尾形会長 ありがとうございます。

そろそろお時間でございますが、最後に、どちらかといいますと、もうちょっと一歩、別な側面からひとつご発言をいただければよろしいかと思いますが、どうぞ。

○委員 前回欠席したので、全体の流れって余りわからなかったのですが、きょうちょっといろいろお聞きして、私は実は柴田町のほうでも委員になっていまして、柴田町も1回目出たんですけども、結局この地域って大体同じだと思うんですね。だから人口、もう問題は、これ基本的には最終、私の考えですけども、人口をいかに減らさないか、ふやそうかというところに尽きて、その重点プロジェクトは全て手段でしかないと思うんですね。

だから、そういう意味では、私ちょっとその他の方とご意見違うんですけども、横断的にいかないと、縦割りになってはいけないと基本的に思うんですね。なので、そうやって横断的にどんどん絡んだものは全て一緒にやっっていけないといけなくて、最終的に人口をふやしたりとか活性に向けていくための方法として何をしていくかという点、イベントの話とかは出ましたけれども、それは今いる人が何とかするだけの話であって、もっと根本的なところをいろいろやっっていかなきゃいけない中で とかと見ていると、まずはやっぱり仕事というところが大きくあると思うんですね。その中で、仕事と考えたときに大河原の仕事をふやすんじゃなくて、ここ仙南地域と考えたときに、ここは住居であって、先ほど部長から話があったように、角田とか柴田とか白石に通勤、または仙台に通勤されている方が多いので、いかに通勤しやすい町にするとか、ここに企業誘致なんて余り考えなくても私は基本的にいいと思っているんですね。なので、そういう意味では広い意味で考えて、いかにこの大河原町の人口をふやして、または減らさないでおこうかということを考えていかないといけないと思っています。

なので、先ほどからちょっと出ていた子育てについては、非常に重要なところだと私も思っていて、私もここで実は30年前にこちらに転居してきたんですね。今はもう30年こちらに住んでいますけれども、そういう意味ではよそ者からすると、やっぱりいろんなところが目についたりとかします。やっぱり交通の便、子供がいかにこれから大きくなって行って、通学しやすいかどうかとかというのが子育てしていく中でも非常に重要な観点だと思います。

そのために、今転居する方もいらっしゃると思いますし、また転勤等もありますから、できれば地元の企業をふやしたいとか、もしくは地元で頑張っている企業を応援してあげて従業員をふやすような努力をすることとか、そちらのほうの方が重要で、結局誘致しても、その会社で転勤とかがあると、比較的結構動いてしまうんですね。だから、そうじゃなくて、地元に基づいた企業を強くしていくことが重要だと基本的に考えていて、そういう意味では役場とかは地方に

において一番大きな会社だと思っているので、私は民間なので、余り言うと怒られますけれども、いわゆる地域に対して随契をしていって、まず地域のお金を地域に還流していくことを堂々と私はやっていくべきだと思う。それも、地域というのも先ほど言った、この自治体だけじゃなくて広域で、要するに自分たちの交流人口があるところは全部地元だという考えのもとに仕事の発注等をやっていけばいいかなと思います。

私もICTの感じからいくと、やっぱり情報発信するために、ちょっと見ていたら、何か助け合いし隊とかとあったじゃないですか。やっぱり情報発信し隊みたいなやつをつくって、いろんな方が大河原町ってこういう町だよということを情報発信できるような、そういうセミナーをやったりとか、そういう発信できる環境整備、Wi-Fiも書いてありましたけれども、そういう整備をやっていくことが重要なかなというふうに思います。

アンケート見ていると、こちらに転居される方が調べたのはインターネットが半分ですね、不動産屋と。多分インターネットって、ある方が目的を持ったときって、そこにしか行かないですよ、もう今や。なので、ふだんは使っていないけれども、その方が目的を持ったサイトとか情報が大河原にあるかどうかというのはかなり大きくて、なければ当然、柴田町が特化していれば、それは柴田町に行ってしまうんですね。仙台にあれば仙台に行ってしまうので、その他の地域からの転居の方って、そういう意味ではもうもっともっとその情報を発信するようなことをやって、施策としてもやっていって、またこの町に住んでいる方もそういうことをできるように勉強していくことが地域おこしにつながるかなというふうに思っています。

○尾形会長 ありがとうございます。

ちょうど時間の関係もありますが、最後に何か一言、いろいろとお考えも具体的にいろいろおありでしょうから。

○委員 ちょっと皆さんから意見いろいろ出たので、私もテーマはどういうふうにしていったら、会長から言われたように、テーマというのはどのぐらいあって、どういう策があって、さっき守る、攻めの話ありましたけれども、今度は予算と期間も入れた形でどうやって絞り込むんだろうというのをちょっと気になっている。そのためには、今出ているテーマはどのぐらいあるのというのはひとつ事務局でまとめていただきたいな。

さっき18歳から39歳の1,000人アンケート出ましたけれども、これは私から言わせるとナンセンスなんですね。というのは、生まれ育った人が多い、実家が大河原にあるという方のアンケートが60%を占めているようです。そういう方の意見よりも、この後ろで2部添付されていましたけれども、転入者と転出者のアンケートのほうがかなり私と共感するのは具体的に載っ

ていますので、こういったところからテーマをアップしてほしいなど。5人が出たからテーマでないんです。私は1人でもいれば、これは物すごく私は共感するものがある。例えば、あのフォルテ2階、何で4年間もあんなふうになっているのと載っていましたよね。私もそう思うんです。だから、そういったものをテーマとして挙げると、何個も、100項目もなるんですかと。

以上です。

○尾形会長 ありがとうございます。

それでは、ここを皆さんから貴重なご意見を承りましたので、意見の披瀝はこの辺で終了させていただきます。

最後の議案といたしましてその他がございます。

事務局からその他につきまして、ご紹介すること等をお願いしたいと思います。

○事務局 事務局から、まずその他ということでご報告させていただきたいと思います。

まず、1点目なんですけれども、この協議会を、この会議のですね、この会議の意見交換した内容、議事録ですね、議事録とか、あとはこの資料をホームページ上でちょっと公開させていただきたいと思います。

お名前は出しません。委員という形でさせていただきますが、情報公開として町民の皆様にも知っていただきながらよりよいもの、意見等々も多分何かでいただけるものかと思っておりますので、もっとよりよいものにしたいと思っておりますので、ちょっと公開をさせていただければというふうに思っております。

あと、7月24日から26日、金土日になりますけれども、資料のほうに1部添付させていただいておりますが、町内6カ所で住民懇談会、この地方創生に関する住民懇談会を開催いたしますので、もしよろしければ委員の皆様につきましてもご出席をいただければと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

以上、事務局のほうからのお願いというかお知らせというふうな形になります。

○尾形会長 それでは、本日の第2回目の会議、予定いたしました議案につきまして全て終了いたしました。

これを持ちまして第2回目の会議を終了としたいと思います。最後に副会長からひとつ、今までの皆さんから13人の方々からいろんな意見が出ました。どうぞ副会長としてだけじゃなくて、一委員としのご感触もあおりだと思っておりますが、それを含めまして、閉会の辞をお願いしたいと思います。

○金井副会長 皆様、お疲れさまでございました。

本日は、さまざまな意見出していただきました。イベントの活用ですとか、あるいは景観をいかに生かすかとか、さらに子育て環境、文化遺産や企業の誘致など、さまざまな方面からご意見いただくことができました。それらの中で、最後に私自身の意見をちょっとご挨拶にかえさせていただきたいと思います。

皆様から出られた意見の中で、ちょっとというよりも、ご用意していただいた資料を見ますと、行政側の負担が余りにも大きく過大な印象をととても受けていて、これやり切れるんだろうか、恐らく絞っていくのはもちろんだと思うんですけども、それにしてもちょっと負担が余りにも、これは続けていけるんだろうかということがむしろちょっと心配というか持続していけるシステムをいかにつくるのかというのが非常に重要なことかと思しますので、むしろその負担をいかに住民と共有できるのかという部分が非常に大事じゃないかと私は拝聴しながら考えておりました。

そこで、ちょっと思い浮かびましたのは、震災後、地域であれだけの被災をしながら、そこを離れたくないと言っていた住民がなぜそういうふうに使っていたのかというのを考えますと、やはりこの町は自分たちがつくってきたんだという自負がやっぱりあったからだと私は考えております。ですので、住民参加型で、例えば公園を整備するのも行政がやるのではなくて、そうですね、住民の方々ですとか、あるいは学校の行事なども活用しながら、自分たちでこの公園はつくったぞ、そこをぜひ毎日歩きたいとか、そういったふうにいかにこの住民を活用できるのかというのも1つの大きな課題ではないかなというふうに考えました。

以上、私の意見になります。

本日はお疲れさまでございました。

○尾形会長 これをもちまして第2回目の大河原町まち・ひと・しごと創生会議を終了したいと思います。

○事務局 大変きょうはありがとうございました。